

## 横須賀市地域福祉計画の中間見直しに係る検討結果について

### 1 地域福祉計画の概要

#### (1) 計画策定の背景

人口減少、少子高齢化の進展や、人々の意識の変化に伴い、地域における人と人とのつながりの希薄化や社会的孤立の増加など地域力の脆弱化が表出しつつあります。これに加え、既存の制度による解決が困難ないわゆる「制度のはざま」の問題や介護と育児とを同時に行うダブルケアをはじめとする複合的な課題など、支援ニーズも多様化し、また、増加しています。

このように、ますます地域力の充実が求められる中、「困り事を抱えた人に対する支援活動」として捉えられることが多かった地域福祉を「地域社会の中で人と人とのつながりをもって生活することで、住民が安心して暮らすことが可能となるための活動」と捉えた上で、「支え手と受け手の垣根を超えて、みんなで支え合うこと」に変えていく仕組みづくりを行います。

今後は、住民同士の交流促進や地域のつながりの強化など、地域住民が支え合う仕組みづくりをさらに進めていく必要があると考えます。

これらを踏まえ、本市においても、地域住民が支え合い、安心して暮らせるまちを実現するために、福祉分野の各個別計画の基盤となる計画として、本計画を策定します。

#### (2) 基本理念

#### ◆◆◆ 基 本 理 念 ◆◆◆

「誰も一人にさせないまち横須賀」の実現

本市は、全ての住民が多様性を認め合い、身近な日々の暮らしの場である地域社会で重層的につながり、支え合いながら安心して暮らすことができる地域の実現を目指します。

また、地域福祉計画の策定を契機として、住民が地域社会の一員として社会と関わり、誰もがどこかにつながり、自分らしい生活を送ることができるように支援の輪をつなげ、「誰も一人にさせないまち横須賀」の実現を目指します。

### (3) 計画の基本目標

#### ①地域の支え合い機能の強化

既存の制度による解決が困難な課題や、複合的な課題・複雑な事情を抱える人や家庭に関する相談を丸ごと受け止め、地域の多様な主体の連携により適切な支援機関につなぎ、課題解決を図るネットワークの形成を促進します。

#### ②多様な担い手の育成・参画

福祉教育の推進等を通じた地域の担い手のすそ野を広げる取り組みや、支え手と受け手の垣根を超え、日常生活において困り事を抱えたときに地域の中で解決できる仕組みづくりを進めます。

また、福祉の各分野における専門職等に対する研修の充実など、福祉人材を育成・確保する取り組みを推進します。

#### ③包括的な支援体制の整備

地域におけるネットワークでは解決できない課題については、家族丸ごとの相談支援体制で受け止め、解決につなぎます。

また、解決につながった事例を地域の多様な主体によるネットワークで共有するための支援を行います。

#### ④心のバリアフリーの推進

地域福祉は、全ての人のためにみんなで支え合って進めていくものです。

そのためには、多様性を認め合い、地域住民相互の連帯や心のつながりを築くという「共に生き、共に支え合う社会づくり（ソーシャル・インクルージョン）」という考え方のもと、他人に対する思いやりの心や多様性を受け止める意識の醸成といった心のバリアフリーを推進します。

### (4) 計画期間

令和元年度（2019年度）から令和5年度（2023年度）までの5年間

※中間年である令和3年度に見直しを行う

### (5) 評価指標の設定

本計画は、施策の方向性及び展開を記載し、個別事業については各個別計画で規定することとしていること、また、地域福祉を促進する施策の多くは、数値目標がなじまないことから、数値目標は設定しないこととしました。

一方で、目標が設定されていないと施策の効果が図れないことから、計画の策定や見直し時に実施する市民アンケートの回答の変化をもって定性的な評価を行うこととします。

横須賀市地域福祉計画 評価指標 比較表（平成30年度/令和3年度）

No.	項目	平成30年度 基準値	令和3年度 数値	比較
1	今後も「今住んでいるところに住み続けたい」、「市内のどこかに住み続けたい」と回答した人の割合	83.6%	85.6%	2.0%
2	問題解決に適切な窓口を「紹介された」と回答した人の割合	23.7%	23.4%	-0.3%
3	近所付き合いに対する考え方のうち、「親しく相談したり助け合ったりするのは当然である」、「わずらわしいと思うこともあるが、必要である」と回答した人の割合	76.0%	75.3%	-0.7%
4	今後地域活動に「ぜひ参加したいと思う」、「できれば参加したいと思う」と回答した人の割合	48.0%	47.4%	-0.6%
5	福祉に「とても関心がある」、「ある程度関心がある」と回答した人の割合	68.3%	62.5%	-5.8%
6	心のバリアフリーを「意識している」、「やや意識している」と回答した人の割合	46.4%	43.2%	-3.2%
7	高齢者が暮らしやすいまちに「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合	34.1%	41.5%	7.4%
8	障害のある人が暮らしやすいまちに「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合	23.2%	25.2%	2.0%
9	子育てしやすいまちに「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合	40.2%	41.1%	0.9%
10	困ったときに助け合えるまちであるという問いに「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合	31.7%	32.9%	1.2%

## 2 計画の中間見直しに係る検討結果

### ■令和2年度 第10～12回社会福祉審議会福祉専門分科会 アンケート項目の検討

### ■「横須賀市地域福祉に関するアンケート調査」の実施（令和3年6月）

調査期間	令和3年6月1日から6月25日まで
調査対象	18歳以上の市民2,500人（住民基本台帳から無作為抽出）
調査方法	郵送により配布／郵送または電子申請にて回収
回収状況	①配布数 2,500件
	②回収数 1,221件
	うち郵送 1,034件（84.7%）
	うち電子 187件（15.3%）
	③回収率 48.8%

### ■第13回社会福祉審議会福祉専門分科会（令和3年10月8日）

#### （1）概要

- ・横須賀市地域福祉計画の概要を確認したうえで、横須賀市地域福祉に関するアンケート調査結果の報告を行い、意見を聴取しました。
- ・アンケートの調査結果（評価指標の推移）や新型コロナウイルス感染症による変化なども含め、計画の中間見直しの方向性について議論を行いました。

#### （2）中間見直しに関する主な意見

- ・「評価指標 比較表」の10項目の数値を合計すると前回（平成30年度）に比べて2.9%上がっているため、前回に比べ福祉に満足していると捉えられるのではないか。この部分は実績といえる。
- ・「評価指標 比較表」のNo.5の指標（「あなたは福祉に関心がありますか。」）の結果が前回より5.8%下がっているため、福祉に関心を持ってもらえるように今後広報していく必要があるのではないか。
- ・横須賀市地域福祉計画の28頁に記載されている、「市民後見人」や「地域連携ネットワーク」、「チーム」、「協議会」、「中核機関」など、市民の方が分からない用語が多いのではないか。中間見直しする際には用語についての説明を追加するのはどうか。
- ・実績として数値を図れるものは進行管理で実績を出していただきたい。また、計画内に「中核機関を設置します」と記載があるものについては、設置状況等を毎年行っている進行管理で報告するとともに、設置したことを市民に向けてしっかりと広報することが重要だと思う。

(3) 中間見直しについて（福祉専門分科会でのとりまとめ結果）

- ・計画期間自体は5年間であること、計画は施策の方向性を示したものであり個別事業の目標値等を定めていないこと、現時点において計画で示している施策の方向性に大きな変化がないことに加え、今回のアンケート結果（評価指標）も踏まえて、中間見直しはせずに計画に記載されている施策を着実に進めることとします。
- ・審議会で議論した内容を整理して、関係課に伝えて取り組みの充実を図り、その状況について、毎年実施している進行管理で確認することとします。
- ・新型コロナウイルス感染症に関わる取り組みについても既存の施策の中の取り組みとして、進行管理において報告することとします。